秋のまちなか カラフルに

写真で振り返る桐生FW（上）

桐生の産業と文化を発信するイベント週間「桐生ファッションウイーク（FW）」。コロナ禍で昨年初めて中止となり、2年ぶり25回目となった今回は、10月29日から11月7日までの10日間で計19のイベントが繰り広げられた。初参加の国際ファッション専門職大学（東京）の学生たちによるイベントや、ものづくり企業の秘密に迫るファクトリーツアー、ブランド企業の魅力的な製品を集めた合同展など、秋の桐生を彩った数々を写真で振り返る。

（次回18日掲載）

【サステナブルに】ファッション専大の学生20人による「染め直し」の作品展。新たな色をまとって〝再生〟した洋服が蔵の空間で躍動した（10月30日、有鄰館煉瓦蔵で）

【学生トーク】群馬大や前橋国際大の学生とファッション専大の学生によるトークセッション。「内から見た桐生・外から見た桐生」をテーマに、学生たちが本音トークを繰り広げた（10月31日、有鄰館煉瓦蔵で）

【スワップミート】ファッション専大の学生が企画した洋服の交換会「ファッションスワップミート」。価値を失った洋服が別の誰かの価値になるという、これもサステナビリティー（持続可能性）の一つだ（10月31日、有鄰館煉瓦蔵で）

【日常の底力】コロナ禍でイベントの分散開催を推奨し、4社が工場を開放する「オープンファクトリー」を開催。野点で来場者をもてなす企業も（10月29日、イヅハラ産業で）

【ブランド集合】朝倉染布、アライデザインシステム、イヅハラ産業、大橋メリヤス、金井レース加工、桐生てぬぐい、松屋畳店、MiKMoK、龍匠錦による「織彩展」。自社ブランドを持つ企業がその魅力を発信した（11月3日、有鄰館味噌・醤油蔵で）